

かい ちょう  
戒 外 町

## 奈良時代創建の興善寺

江戸時代から明治時代の初めまで「香久山村」といった村落が、明治時代に入って「戒外村」と改称されます。天香久山を取り巻く地に位置した戒外をはじめ、池尻・南山・南浦・木之本・下八釣・膳夫（かしわて）・出合・出垣内・吉備（桜井市）の一〇村が、明治二二年の町村制改革で合併し再び「香久山村」が生まれ旧各村、それぞれ旧村名のまま新しい村の大字となります。

この香久山村が昭和三十一年に桜井市に編入されたあとの同年九月、さらに吉備を除く九大字が橿原市に再編入され、戒外など橿原市の各町が誕生しました。明治一五年ごろの戒外村は、戸数が一五戸・人口が六〇人で、米やシヨウガにさつまいなどを作る静かな村里（町村誌集）でした。

戒外町のほほ真ん中に「香久山の文殊さん」と親しまれる興善寺があります。境内一帯から本薬師寺・藤原宮や明日香村にある岡寺などと同じ様式の古い瓦（かわら）多数が出土しています。寺の創建が奈良時代以前であることを示します。また南都興福寺の古文書によりますと、かつて香山寺（こうせんじ）と呼ばれた同寺に「三学院、僧坊八坊」などがあつたようです。